

花火に平和の思い重ね

大林監督 広島で舞台あいさつ



長岡花火を題材にした映画への思いを語る大林監督(左)と森市長
(撮影・室井靖司)

尾道市出身の映画監督の広島国際会議場 同市の森民夫市長も督大林監督さん(75)を訪れ、作品に込めた登壇し、約千人の観客を前に対談。松井一作した映画「この空の花」長岡花火物語」の物語の舞台となった。無料上映会で広島市中 新潟県長岡市の主催。映画の題材となった

長岡花火には、戦時の空襲や中越地震の犠牲者の追悼と、復興、平和への祈りが込められている。「ぜひ広島で上映したかった」と語る森市長に、大林監督は「古里と古里の間に立ててうれしい」と笑顔で応えた。

映画では、長崎の原爆と同じ形をした模擬爆弾が長岡に落とされた事実も紹介。「戦後70年近かつたが、まだまだ知らないことは多い。過去を学んでこそ永遠の夢は実現できるとその役に立ちたい」と力を込めた。

(松本大典)

大林監督らトーク

「映画で世界結びたい」

長崎



映画「この空の花 長岡花火物語」の上映後、語り合う(左から)森長岡市長、大林監督、田上長崎市長
=長崎市、NCC&スタジオ

新潟県長岡市の花火を題材に平和について訴えた大林監督の映画「この空の花 長岡花火物語」の上映会が10日、長崎市茂里町のNCC&スタジオで開かれた。2回あった上映の前後に大林監督が舞台あいさつをし、観客計約千人に映画への思いを語った。

1回目の舞台あいさつには大林監督と森民夫長岡市長が登壇し、田上富久長崎市長も駆けつけた。田上市長は「長岡市も戦争体験を伝え、平和を願う仲間だと確認できた」と感想。大林監督は「映画で世界中を結べれば素晴らしい」と話した。
(六倉大輔)

自衛艦2隻 長崎に入港

あすまで一般公開

海上自衛隊の多用途支援艦「あまぐさ」(9800ト)



長崎に入港した海自の多用途支援艦「あまぐさ」=長崎市、出島岸壁